

出目固定の簡易戦略で 本気で勝ちに行くプロジェクト

令和の「梁山泊」が爆誕！
舟券攻略に命を燃やす者たちの熱き戦

出目固定システムで究極のロジカル舟券師を目指す。 レースから出目を導く時代はもう古い!?

項目	従来の予想	出目固定システム
判断軸	レースごとに変動	出目ベースで一貫
点数管理	増えがち	固定
改善可能性	検証困難	ロジック構築しやすい。
精神的負荷	ブレやすい	判断が楽になる

戦略的な舟券を模索する

今回のテーマは、「俺たちは舟券師としてちゃんと成長できているのか？」という問いだ。ボートレースは、無数のレースの中から勝負するカードを選び、「この選手はスタートを決めそう」「このモーターは出てる」「この展開なら〇号艇が残すかも」と予想をロジカルに組み立て、出目と掛け金を決めるゲーム。だが実際は、当たっても外れても理由を振り返る間もなく、翌日にはまたテレボートに入金している……。ここでの問題点は「なぜ当たったか」「なぜ外れたか」が曖昧なまま次のレースへ進んでいる点だ。予想がメソッド化されておらず、これでは経験を積んでも予想力は育ちにくく、舟券収支が改善しないのは当然ではないだろうか？

だからこそ提案したいのが、「出目固定システム」という考え方だ。やり方はシンプル。先に自分が狙いたい出目を決めておく。たとえば「2-1-1-3」と決めたら、それがハマリそうなレースだけを買う。そうじゃなければスルー。出目を固定するメリットについては上の表にまとめてあるので次の段落から詳しく説明する。

フォームを固定する

なぜ「出目固定システム」が機能するのか？ まず第一に、判断軸がブレなくなるからだ。レースごとに「この選手がスタート決めそう」「モーターが出てる」「展示タイムが良い」など、予想の基準が毎回バラバラになっていた状態から、「特定の出目が来るかどうか」だけに集中できるようになる。判断基準を固定することで、買うかどうかの判断も早くなり、予想に余計な迷いが入りにくくなる。

第二に、点数管理と資金管理が明確になる。出目をあらかじめ決めておけば、買い目は基本的に固定され、思いつきで点数を増やすことも減り、無理のない舟券の組み立てができるようになる。

そして第三に、検証と改善がしやすい。外れたときも「なぜこのレースでは特定の出目が成立しなかったのか？」という問いに向き合いやすくなり、逆に当たったときも「どんな条件が揃っていたから当たったのか」を具体的に振り返ることができる。こうして予想のプロセスに再現性が生まれるのだ。では、どんな出目を迎えに行けばいいのか？ 次回は全国24場すべての120通りの出目について、出現率と回収率をデータで洗い出し、場ごとに狙い目の出目絞り込んでいく。